

<p style="text-align: center;">Devotion Guide/ユースマナ</p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p>	<p style="text-align: center;">2023/6/26(月) ヨシュア24章</p> <p>24章では、アブラハムの召命から出エジプト、ヨルダン川を渡り約束の地に入るまで、また約束の地での占領地の獲得について、ヨシュアが主の言葉を取次ぎ、振り返っている(2~13)。 ★私達(の先祖)も他の神々に仕えていた者だった(2)が、イエスに選ばれ、イエスとの関係に招待された。これらはいずれも、ただ神の恵みによること(エペソ2:1~5)。 ★ヨシュアは民に、「あなたがたの心の中にある異国の神々を取り除き、イスラエルの神、主に心を傾けなさい(23)」と語られる。ヨシュア記の一つのテーマに、“徹底して罪を憎むこと”があり、それゆえ、占領地を獲得するための激しい戦いが繰り広げられた。世を愛するのではなく、神のみこころを行う者となる(1ヨハネ2:15~17)。 ★ヨシュア記を読んで受け取ったことをノートに書き、友達や家族に話そう!</p>	<p style="text-align: center;">2023/6/27(火) 詩篇17篇</p> <p>【ダビデの祈り】 ダビデは、自分が完璧ではないと知っている。けれど、心を調べられる神様の前にどれだけ心を開いているかが伝わってくるね。ダビデは祈りを聞いてくださる方の前に真剣だった。</p> <p>ダビデには敵がいた。「かみ裂くことに飢えた獅子」のような敵の前に、ダビデは神を呼び求める。「私たちの敵である悪魔が、吠えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」(1ペテロ5:8)。私たちの信仰や、神様への信頼と愛を揺るがそうと狙っている悪魔の攻撃や罠から守られるように祈ろう! 神様はあなたを瞳のように守ってください。</p>	<p style="text-align: center;">2023/6/28(水) 詩篇18:1-29</p> <p>ダビデは、多くの敵、特に自分を殺そうとした義父サウル王の手から主が救ってくださった時に「我が父なる神よ」と主を賛美した。続けて、聖なる恐れと親しみをもって「私はあなたを慕います」(英訳はI love you)と心からの信頼と感謝を捧げる。この方こそ「褒め称えられる方。この主を呼び求めると私は敵から救われる」(3)。 ダビデは死の恐怖に襲われる中で、主に叫び、そして主は彼を敵から救い出された。私たちも信仰者として歩む中で、多くの困難があり、絶えずみことばによって力づけられていることが大切である。</p>
<p style="text-align: center;">2023/6/29(木) 詩篇18:30-50</p> <p>『神その道は完全。主のことばは純粹。主はすべて主に身を避ける者の盾。』(30節) 『主のほかにはだれが神でしょうか。私たちの神を除いてだれが岩でしょうか。』(31節)</p> <p>ダビデは神様こそ、戦いの防御である「盾」、避けどころとしての安全な砦である「岩」だと言っている。神様は私たちを守り、助け、支え、生かし、導く唯一の方である。 神様が自分自身の唯一無二の存在となっているだろうか? 間違えた優先順位をもっていないだろうか? 神様のみこころを聞き、その道を歩み続けよう!</p>	<p style="text-align: center;">2023/6/30(金) 詩篇19篇</p> <p>7vをゆっくり3回読もう! ●「主のおしえ(みことば)」はどんなものかと言っているかな? ●主のおしえには、どんな力があると言っているかな? ●この詩篇を書いたダビデは、普段から神様との時間を愛し、御声を聞いていたんだろうね。君はいつものデボーションの時間を良くするために、どんな工夫ができるかな?</p>	<p style="text-align: center;">2023/7/1(土) 1コリント1:1-9</p> <p>今日からコリント人への手紙が始まるね。コリントの教会の問題について、それをどうしたら良いかも手紙で伝えようとしたパウロ。そして、神様がおられる恵みに目を向けて、心からの感謝をささげていたんだ。 みんなにも解決しないといけないことってあるかな。ぜひ書き出して、実際に主に委ねよう。</p>	<p style="text-align: center;">2023/7/2(日) 1コリント1:10-17</p> <p>パウロはこの手紙の中で「兄弟たち」ということばを39回用いて、問題だらけのコリントの教会に兄弟愛をもって寄り添う。コリントの教会の兄弟たちはそれぞれ自分たちの指導者を立て、党派を作り、互いに争っていた。パウロはその彼らに、まずすべての名の上に位置するイエス様の御名を思い起こさせている。教会は牧師のものでも宣教師のものでも役員のものでもない。十字架の死をもって彼らを贖ってくださったイエス様のものがある。 さらにパウロは仲間割れの愚かさを指摘する。彼らはみな神様のからだなる教会の一員である。その御名によってバプテスマを受けることでその一員となった。パウロの使命はバプテスマを授けることではなく、福音を宣べ伝えることであった。仲間割れをしていた者たちはそれぞれが支持する指導者の知恵を誇ったが、パウロ自身は自分の知恵によらず、イエス様の十字架を明らかに示すことを旨としていた。イエス様の十字架こそが救いを与える神様の知恵だからである。 私たちが集まって交わる時に、中心にイエス様を見て集うことができますように。</p>